

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果より

敦賀市立角鹿中学校

中学3年生を対象とした全国学力・学習状況調査の結果から見てきた角鹿中学校生徒の成果と課題についてお知らせします。今回の調査で見えてきた課題を克服し、さらなる成長を目指して、学校全体で取り組んでいきます。

1 教科に関する結果から

◎国語

【特に正答率の高かった設問】

- 文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題
- 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題
- 表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題
- 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる問題

【課題】

資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題（下記の問題）

【対策】

国語のみならず、各教科や総合的な学習の時間などで自分の考えをまとめ、発表する活動において、互いのまとめを推敲し合う活動を取り入れます。また、模範となる文章の優れている点について話し合う活動なども取り入れます。

スライドの下之余白に、「花を育てる楽しみが地域にも広がること」が強調されて伝わりやすくなる。

正答例（工夫の仕方） A

四 村田さんは、【村田さんのスピーチ】の [] の内容をより分かりやすく伝えるために、〈スライド⑤〉を工夫したいと考え、あなたに助言を求めています。あなたなら、どのような助言をしますか。あとの【工夫の仕方】のAからCまでの中から1つ選び（どの【工夫の仕方】を選んでもかまいません。）、条件1と条件2にしたがって、村田さんへの助言を書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

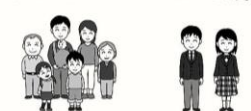
問題

【村田さんのスピーチ】の []

今行っている活動を工夫することで、私たちのマリーゴールドと、花を育てる楽しみが地域にも広がります。学校と地域が、マリーゴールドでつながったら、すてきだと思いませんか。

〈スライド⑤〉

「つなごうマリープロジェクト」



- A 〈スライド⑤〉に、言葉を加える。
- B 〈スライド⑤〉のイラストを修正したり、イラストを付け加えたりする。
- C AとBとを組み合わせる。

条件1 選んだ【工夫の仕方】について、どのように工夫するかを、具体的に書くこと。

条件2 条件1で工夫したことにより、どのように分かりやすくなるかについて、[] の内容を具体的にに取り上げて書くこと。

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

【工夫の仕方】

① ② ③ ← 選んだ【工夫の仕方】の記号を塗りつぶしなさい。

出典：令和7年度全国学力・学習状況調査 中学校国語より

◎数学

【特に正答率の高かった設問】

- 事象が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる問題
- 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題

【課題】

素数の意味を理解しているかどうかをみる問題
(以下の問題①)

ある事象が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題 (以下の問題②)

【対策】

左記の問題に限らず、小学校で既に学習済みである算数の知識や定理、公式が定着していないことがあります。ただ単に暗記するのではなく、言葉の意味や数の構成、性質など、様々な見方、捉え方ができるような学習活動を心がけます。例えば8という数を見たときに、積が8となる式や、素因数分解した形を考えるなど、生徒たちが数に対して多様な見方・考え方をする機会を増やしていきます。

証明問題では、模範解答を例にとって証明の仕組みと書き方について再度学習し、ペアで互いの証明について検討するなど、論理的に説明する力を習得する場面を多く取り入れます。

問題①

- 1 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

解答

2, 3, 5, 7

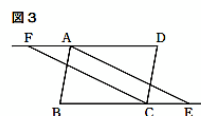
問題②の解答

平行四辺形 $ABCD$ の向かい合う辺は平行であるから、
 $AB \parallel DC$
 よって、 $AG \parallel HC$ ……①
 平行四辺形 $FCEA$ の向かい合う辺は平行であるから、
 $FC \parallel AE$
 よって、 $GC \parallel AH$ ……②
 ①、②より、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であるから、四角形 $AGCH$ は平行四辺形である。

出典: 令和7年度全国学力・学習状況調査 中学校算数より

問題②

(3) 次の図3のように、平行四辺形 $ABCD$ の辺 BC 、 DA を延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点 E 、 F をそれぞれとります。



このとき、四角形 $FCEA$ は平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

証明2

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$
 よって、 $FA \parallel CE$ ……①
 平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ……②
 仮定より、
 $DF = BE$ ……③
 ②、③より、
 $DF - AD = BE - BC$ ……④
 ④より、
 $FA = CE$ ……⑤
 ①、⑤より、
 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
 四角形 $FCEA$ は平行四辺形である。

さらに、次の図4のように、辺 AB と線分 FC の交点を G 、辺 DC と線分 AE の交点を H とすると、四角形 $AGCH$ も平行四辺形になります。

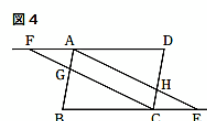


図4において、四角形 $AGCH$ が平行四辺形になることは、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であることを示すことで証明できます。四角形 $AGCH$ が平行四辺形になることを証明しなさい。ただし、四角形 $FCEA$ が平行四辺形であることはすでにわかっていることとします。

◎理科

【特に正答率の高かった設問】

- 身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる問題
- 科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる問題

【課題】

水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題
(下記の問題①)

化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる問題 (下記の問題②)

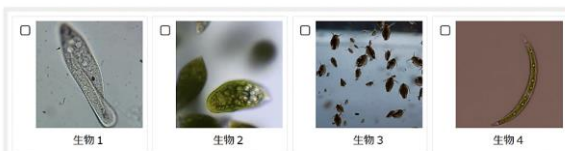
【対策】

観察や実験から、事象や結果について話し合ったり、まとめたりする場面を大切にします。また、実験・観察の視点も再確認し、着目した点について話し合う活動を取り入れます。

原子や分子、化学式、化学反応式の構造を再度確認し、実験やその映像などと対応させながら、化学変化をモデルで表す活動をしていきます。また、それらを互いに説明し合う場面をつくり、自分の言葉で表現し合う活動を取り入れます。

問題①

- (4) 呼吸を行う生物をすべて選びなさい。なお、生物1から4のすべてを選んでもかまいません。



問題②

5

理科の授業で、火を使う実験を行っています。
(1)、(2)の各問いに答えなさい。



問題②のつづき

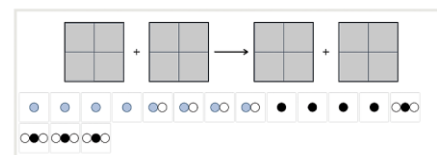
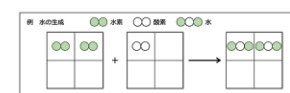


ドライアイス(二酸化炭素)の中で、マグネシウムは燃焼するでしょうか。動画を見て、圖を参考にその結果を考察しましょう。



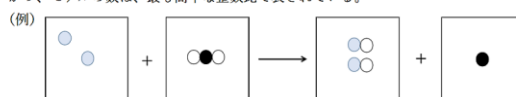
二酸化炭素の中では、火は消えると思いましたが、燃焼しました。何が起きているか、化学変化をモデルで表しました。

(2) マグネシウム原子●、二酸化炭素○●、酸化マグネシウム○●、炭素●を表したとき、右側の化学変化はどのように表すことができますか。「例」の半成)を参考に、□にモデルを移動して、化学変化をモデルで表しなさい。なお、使っていないモデルもあります。



解答

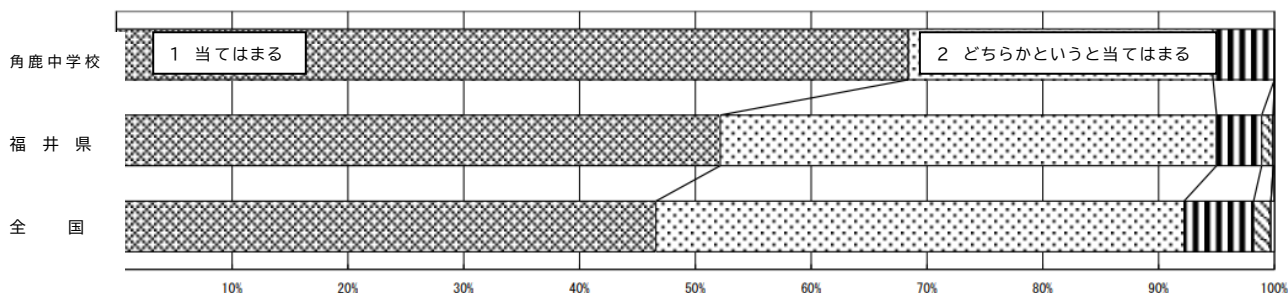
- (2) 物質を正しく化学式のモデルで表し、化学変化の前後で原子の種類と数が変化していない。かつ、モデルの数は、最も簡単な整数比で表されている。



2 学習状況調査より

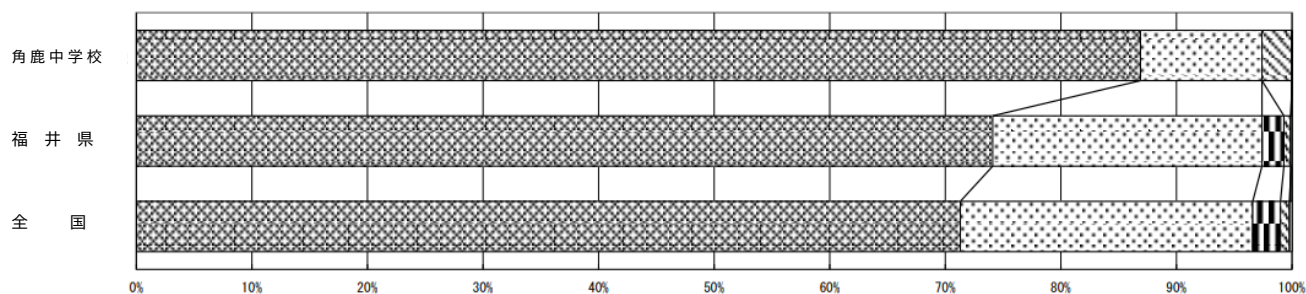
【特に良好であった点】

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



「自分には良いところがあるか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」「学校に行くのは楽しいか」などの質問(項目)においても、「当てはまる」と回答した生徒の割合が県平均・全国平均を上回っています。本校のスクールプランでは「心のよりどころづくり」を目標に掲げ、「大切にされている」という意識の醸成や、「聴いてもらえる」という安心感を与えることに努めてきた成果が表れていると思われます。

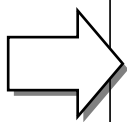
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」「自分と違う意見について話し合うのは楽しいか」という質問(項目)でも「あてはまる」と答えた生徒が多くいました。これは、小中一貫教育やふるさとを愛する心の涵養、また、「ピアサポート」などによる他者を思いやる心を育み、多様な価値観を育成してきた成果の表れと考えています。

【課題】

- ・将来の夢や目標がまだ定まっていない生徒が多い。
- ・普段の生活の中で幸せな気持ちになる生徒の割合が減ってきている。



【対策】

- ・様々なキャリアを学ぶ機会を増やすことで、生徒一人ひとりが様々な夢や目標を持てるように支援していきます。
- ・総合的な学習の時間における探究学習に力を入れることで、エージェンシー(自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力)を育てていきます。
- ・本校がこれまでも力を入れてきたレジリエンス教育をベースとし、道徳や学級活動、生徒会活動などの活動を通して子ども達の自己肯定感を高め、挑戦する力を育てていきます。
- ・タブレットによる朝の健康観察や毎月行っているアンケート調査により、個々の生徒の心の揺れに寄り添っていきます。

今後も、教職員一同力を合わせて、
学校教育目標「これからの社会をたくましく生きる力を持つ児童生徒の育成」
に努めてまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。